

佳作

◇目次

あらすじ

- 1 これからの話
- 2 デイドリーム
- 3 私たちの命

私たちの空

兼島拓也

◇登場人物

まりえ（第1話、第3話）

るーなー（第1話、第3話）

ゆつきー（第1話、第3話）

息子／兵隊（第2話）

父（第2話）

上官（第2話）

小那覇舞天（第3話）

◇台本中の記号について

★…観客に向かって話しかけるように発話

【あらすじ】

この戯曲は、一九五九年六月三〇日に起こった「宮森小米軍機墜落事故」から着想を得て書かれた3部構成の作品です。

あのような事故がもし今の時代に、しかも自分たちのいるこの場所に来たら？ そのとき被害者、加害者（事故を起こした人）は何を思うだろうかと想像し、それぞれ第1部、第2部にまとめました。

そして、事故を経験した人はその後をどう生きていくのだろうかということ、うるま市石川のシンボルともなっている小那覇舞天を絡ませて物語にしたのが第3部となっています。

1 これからの話

「これからこの舞台の上に、ジェット機が落ちてきます。空から降ってきた鉄の塊と爆音。少女たちのなにげなくて、とりとめもなく、かけ

がえのない時間は、あっさりと奪われてしまう。

2 デイドリーム

父の背中を追うように、アメリカ空軍のパイロットになった青年。意気揚々と戦地に向かうも、戦争の不条理さに心が削られていく。いつからか、墜落事故で死んだ父が見たはずの光景を、夢に見るようになる。

3 私たちの命

ジェット機墜落事故現場にしながら、幸いにも生存していた少女。でも彼女は、事故で友人を失った悲しみと、自分だけが生き残った罪悪感から、心を閉ざして生きている。そんな彼女の元に、亡くなった友人たちから贈り物が届く。

『1 これからの話』

スクリーンに次の言葉が投影される。

プロジェクター「1959年6月30日。

あの日の天気を知ってる？

はれ？ 雨？ それとも、くもり？

知るわけないよ、そんな昔のこと。

でも。ひとつだけ知ってる。

あの日、この場所に

ジェット機が降ってきた。

まるで、通り雨が降るみたいに。

空から降ってきたジェット機は、
宮森小学校の校舎を、石川の街を、
沖繩の心を、小さく弱い命を、
踏みつぶした。

まだ覚えてる？

あの日、

ジェット機が降ってきたこと。

この先も、ずっと覚えてる？

わたしたちはいつか、忘れてしまう？
あの事故のこと。

遠い日の空もようを

すっかり忘れてしまうように。

〇〇年〇月〇〇日。（上演日時）

今日の天気を知ってる？

はれ？ 雨？ それとも、くもり？

かんたんさ、そんなこと。

空を見上げたら、ほら、

今日もあの日みたい、

いまにもジェット機が、

降ってきそうだ。」

プロ「1 これからの話」

教室。机と椅子のセットがいくつか（3つ以上）置いてある。

登場人物3名、舞台前方に立っている。

★ゆつきー 自分なんかはいま、これからどうしたらいいのか、って

いうより、どうしたいのかがあんまり……あんまりって
いうか全然わかってないです。

★まりえ っていうのも、これから、いつかはわかんないけどでも

どっかのタイミングで、飛行機とか、ジェット機とか
ここに落ちてくるよって言われても、なんかあんまりわ
からないっていうか、;

★るーなー

もう少ししたら、この舞台の上に、ジェット機が落ちてきます。その、落ちてくるまでの間のやりとりっていうのが、いまからこの舞台の上でやる劇です。

★ゆつきー

でも、自分なんか3名は、落ちてくるってことを知らないです。だからそのまま普通に話とかしてて、急に飛行機が落ちてきて、そして、3名のうちの誰かが死にます。でももしかしたら、全員が死ぬかもしれない。

★まりえ

ここは教室で、私たちは友達で、同じクラスで、いまは休み時間でした。

★るーなー

わたしたちはいつも、最近あったこととか、好きな男子がどうか、ムカついたこととか、特にきまってはなけれど色々話をします。こんなふうに……。

このときまでには、3名とも誰かの机の周りに集まってきている。

★ゆつきー

いま話してるのは、(まりえを指し)この子が、「まりえ」っていうんですけど、まりえが好きな男子が「ゆうた」って言うって、告ろうかな〜って思ってた、

★まりえ

そうそう。で、どんなってやったらいい？ っていうのを二人に相談して……

るーなー
(まりえに) っていうか、まずLINE知ってるの？

まりえ
え、誰の？

るーなー
ゆうたーの。

まりえ
え、知らない。

ゆつきー
は？

まりえ
え、なに？

ゆつきー
まずLINE聞いてからでしょ。

まりえ
知ってる？

ゆつきー
知らない。

まりえ
(るーなーに) 知ってる？

るーなー
ううん。

まりえ
え？ じゃあできんさー。

ゆつきー
自分で聞け。

まりえ
はー無理ー。

ゆつきー
なんでよ？

まりえ
だってかっこいいのに。

るーなー
どういうこと？

まりえ
緊張するさ。

ゆつきー
好きだったら自分から聞いたらいいさ。

まりえ
好きだからできないんじゃない。

ゆつきー
知らんし。

★るーなー
って感じで、いつも恋愛の話とか、そういうのを……

まりえ
(ささげぎって。ゆつきーに) っていうかさ、

ゆつきー
うん？

まりえ 宿題やった？

ゆつきー なんの？

まりえ 算数。

るーなー へ？ あった？

まりえ あったよ！

ゆつきー やったよ。

まりえ えー、いんちき！

ゆつきー なにが？

るーなー っていうか、どこ？

ゆつきー なにが？

るーなー 宿題。

ゆつきー ランドセルの中。

るーなー じゃなくて。

ゆつきー

なにが？

るーなー

いいよもう、(まりえに)ねえ、どこ？

まりえ

(胸に手を当てて) ……ここよ。

るーなー

……はっさ……。

まりえ

うそうそ。

るーなー

いいよもう。

まりえ

授業でできなかつたところ宿題ねーって先生が言った

さ。

るーなー

だっけ？

まりえ

うん。

るーなー

(ゆつきーに) えー、見せて。

ゆつきー

いやー。

るーなー

なんなの?!

まりえ

はー、お願い。怒られる。

ゆつきー

ゆうたーに見せて貰えばいいさ。

るーなー

あー、ね。

まりえ

いや無理でしょ。

るーなー

でも頭いいからやってんじゃん？

まりえ

やってるけど多分……いやいやいや、

ゆつきー

何がアレなの？

まりえ

恥ずいさ！　っていうかまず、なんて声かければいいのか

かわからんし。

るーなー

普通に。「勉強教えてー」って。あ、で、「あ、LINE

も教えてー」ってついでに。

まりえ

おかしいでしょ、このタイミングでLINE聞くとか。

るーなー

じゃあるーなーが見せてもらおう。ゆうたーに。

まりえ　　なんでよ。るーなーはゆつきーの見せてもらって。

ゆつきー　　いやー。

まりえ　　なんでよ！

るーなー　　ゆうたーは？

ゆつきー　　わかんない。トイレとかじゃん？

るーなー　　（立ち上がり）じゃあちよつと、

まりえ　　ちよつと待って、なにすんの？

るーなー　　トイレ。

まりえ　　絶対ゆうたーのところでしょ。

るーなー　　違うし！

まりえ　　絶対嘘！

るーなー　　ほんと！　トイレ行くついでに、ゆうたーのところ行くだ

け。

まりえ
行くんやっし！

るーなー
あー漏れる漏れる（と教室を小走りで行く）

まりえ
待って本当にやめて！（とるーなーの後を付いていく）

★ゆつきー
二人は、教室から出て行ってしまいました。でも、もしいま、

飛行機がこの教室に落ちたら、死ぬのは自分だけってことになるかと思いません。

★ゆつきー
死ぬのが自分だけだったら、一応寂しいではあるんです

けど、でも、他の二人が死なないなら、自分だけでいいんなら、自分が死ぬことで二人が助かるんなら、それでもいいかもしれない、って気持ちもちよつとだけあります。……でも、本当に落ちてきて、飛行機が。それで本

当にもう死ぬよってなったときに、そんなって思うかは、あんまりわかんないです。

間

まりえ、るーなー、小走りで教室に入ってくる。

まりえ あーーー！！（とやってきて机に突っ伏せる）

ゆつきー どうしたの？

るーなー 大丈夫ってば！

まりえ もう無理！ もういや！ もう帰りたい！ もう消えた
い！

るーなー そんなに、でも、アレだったよ？

ゆつきー なになに？ なにがあったの？

るーなー

トイレ行った時にさ、

まりえ

(ささぎぎって) 言わんで！

るーなー

ちよつとだけ、

まりえ

ダメ！……自分で言う。

るーなー

言うんかい。

まりえ

トイレのそこ行った時、最初。そのときはいなかったわけ、

ゆうたー。

ゆつきー

うん。

まりえ

したらるーなーが漏れるとか言うから、

るーなー

(ささぎぎって) 言っていないし。

まりえ

言ったさ。

るーなー

言っていないし。漏れそうって言ったんだし。

まりえ

一緒さ！

るーなー
は、違うし！（ゆっきーに）違うよね？

ゆっきー
一緒だね。

まりえ
ほら。

るーなー
なんなの？

ゆっきー
で、なに？

まりえ
で、漏れるって言ったから

るーなー
漏れそう、ね。

ゆっきー
いいよどっちでも。

まりえ
で、るーなーがトイレ入って行きよったわけさ。したら、

ゆうたーが出てきたわけ。

ゆっきー
え、待って！　なんでゆうたー女子トイレから出てきて

んの?!

まりえ
あー、ごめん、じゃないじゃない。

ゆつきー

え、ゆうたーってそういう人？

まりえ

あ、違う違う、間違った。そういうアレじゃなくて、

ゆつきー

(ささぎぎって) あ、間違って女子トイレ入ったってこと？

まりえ

じゃなくて！ まりえが間違った。男子トイレから出て

きたわけ！

ゆつきー

まりえが

まりえ

違う！

ゆつきー

ああ、るーなーが。

るーなー

違う！

まりえ

ゆうたーが！

ゆつきー

ああ、ゆうたーが。

まりえ

ゆうたーが男子トイレから出てきてから、したらなんか
すぐ、なんか変な顔したわけ。

ゆつきー

まりえが。

まりえ

ゆうたーが！

ゆつきー

ああ。

まりえ

で、なんか、「臭っ」みたいな感じでゆうたーが言ってから。

ゆつきー

うん、

まりえ

でもたしかに、その前くらいから、なんかちよつと臭かつ

たわけ。

ゆつきー

まりえが。

まりえ

トイレが！ トイレがつていうか、トイレの前が。……で、

「臭っ」て言った後に、ゆうたーが。なんか、まりえの方
チラッて見たわけさ。実際に言っではないんだけど、で
もなんか「お前か」みたいな。

ゆつきー

ああ。バレたんだ。

まりえ

バレてない！ バレてないっていうか、まりえじゃないし、臭いの！

ゆつきー

でもあれさ、自分の臭いは自分ではわからんっていうさ。

まりえ

は？ なにそれ？ え、文句？

ゆつきー

あ、いや、べつに……

るーなー

(ささぎぎって) そんなにあれだよ。別にいうほど臭くなくなつたよ。

ゆつきー

まりえが？

まりえ

トイレが！

るーなー

それにたぶん、ゆうたーも、そんなって思っていないと思うよ。

うよ。

まりえ

そうかなあ……

ゆつきー

言ってきたらいいさ。

まりえ なにを？

ゆつきー あれ、臭かったのまりえじゃないよーって。

まりえ なんでよ！ 逆に怪しいでしょ、そんなってしたら。

ゆつきー 大丈夫！ あ、で、ついでにLINEも聞いたらいいさ！

まりえ バカなの？ 絶対変さ、それで聞くとか！

ゆつきー じゃあ代わりに言ってきてあげるよ！

まりえ なんでよ。

るーなー 大丈夫よ。（カバンに付いているお守りを外し）はい、こ

れお守り。あげる。

まりえ え？

るーなー これ持ってたら、絶対大丈夫だから！

まりえ ……うん、わかった。

ゆつきー はい、じゃあゆうたーのところ行っといで。

まりえ

うん。(と教室を出て行くこうとするが、立ち止まる) ちよつと待って？

るーなー

ん？

まりえ

このお守り、交通安全さ！

るーなー

うん、そうだよ。

まりえ

なんでよ！ 普通こういうときって恋愛のお守りで

しょ！ なんで交通安全だわけ？

るーなー

いまこれしかないんだのに！ これでも効き目一緒だ

よ！

まりえ

なわけないでしょ！

るーなー

わかった。じゃあ今度はちゃんと恋愛のお守りあげるから。いまだけこれ持ってて！ 今度恋愛の持って来るか

ら！

まりえ

え〜？

ゆつきー

わかった！　じゃあ自分もあげるよ、商売繁盛のお守り。

まりえ

なんでよ！　つていうかなんね、商売繁盛つて！

ゆつきー

なんか、お店とか開いたら、お客さんいっぱい来るつてよ！　家にたくさんあったから今度持つてくるよ。

まりえ

恋愛と関係ないさ！

ゆつきー

一応一応！

るーなー

なんか、ショーバイハンジョーつて、必殺技っぽくない？

ゆつきー

あ、ぼ〜い。

まりえ

なんの必殺技よ！

るーなー

え、なんか。ショーバイハンジョー！　ほら。

まりえ

そうかな？

ゆつきー

やっぱ代わりに言つてこ（と教室を出て行く）

まりえ

え、待って！（と付いて行く）

間

★るーなー

本当のことというと、まりえが臭いって言われたっていまさつき言ってたんですけど、あれ、るーなーがオナラしたんですよ。だから、なんかちよつと気まずいっていうか……。

★るーなー

（遠くの方を見つめ）たぶんそろそろ落ちてきても、飛行機が、もうそろそろかな〜つてくらしいの時間ではあるんですけど。

★
るーなー

飛行機が落ちてきたら、誰かが死んでしまうってことはもう決まってる、でもわたしも、あとの二人もそうなんですよ。知らないんですよ。落ちてくるってこととか、あと、誰かが、もしかしたら全員が死ぬかもってこと、三人とも知らないんですよ。もしわかってたら、すぐどこか違うところに逃げてから、そしたら死ななくて済むんですよ、でもそれができないんですよ、飛行機が落ちてくるとかって知らないから。

★
るーなー

だからたぶん二人ともここに戻ってきて、三人で普通におしゃべりとかして、いつも通り楽しくっていかさうという感じで、別にもうすぐ死ぬとか考えずに、で、いつのまにか飛行機落ちてきて、死んじゃうんですよ、もう

すぐ……

ゆつきー、まりえ、キヤツキヤしながら戻ってくる。

ゆつきー 聞いて！ こいつ、ゆうたーと付き合いよった！

るーなー え、待って、なんで？

まりえ (にやけながら) やばいやばい、どうしよう、やばい。

るーなー なに、キモいけど。っていうかさっきのお守りのお陰じゃん？

まりえ 違うし。あれ交通安全だから関係ないし。まりえの実力

ど！

るーなー は、キモっ！ 感謝しれ！

まりえ あざっす！

るーなー

は？

ゆつきー

なんか、ゆうたーが廊下に立ってたわけさ。なんか、こんな感じで（仕草を真似している）

まりえ

やばい、イケメン！

ゆつきー

で、ゆうたーに、「なんかまりえが言いたいことあるみたいよー」みたいな感じで言ったわけさ。したら「ああ、」（真似）みたいなの。

まりえ

かっこいい！

るーなー

どこが？

ゆつきー

（まりえに）やって、さつきみたいなの。

まりえ

なんか恥ずい……「ゆうたー、さつきさ、トイレのところで会ったさあね」

ゆつきー

「うん。」

まりえ 「あのとき、『臭っ』て言ったさ、ゆうたー。」

ゆつき 「え？ うん。」

まりえ 「あれさ、まりえじゃないよ？」

ゆつき 「……ああ。」

間

るーな 「え、そこ？」

まりえ 「ん？」

るーな 「付き合ってたってとこやるんじゃないわけ？」

まりえ 「ああ、

大丈夫、いまからやる。（まりえに）はい、続き。（と手

を叩く）

まりえ 「まりえ、臭くないよ。」

ゆつき 「うん、わかってるよ。っていうか、話ってその話？」

まりえ 「え？ うん。」

ゆつき 「ああ……なんか、もしかしたら告られるのかなあとかって思っ、嬉しかったのに。」

まりえ 「え？……」

ゆつき 「いいよ、じゃあ、俺から告るよ。」

るーな 「はあー！！ やばい！ イケメン！

まりえ でしょ？ やばいでしょ！

るーな やばいやばいやばい！

ゆつき っていうキモい展開があつて、付き合いました。

るーな はあーやばい、るーなもゆうたーに告っていい？

まりえ なんでよ！

るーなー

はあ、いいはず！　なんか羨ましい。

まりえ

はあ、良かったあ、臭くて。

ゆつきー

まりえが。

まりえ

トイレが！

るーなー

あんたあれだよ、るーなーに感謝しないと。

まりえ

なんで？

るーなー

トイレが臭かったの、るーなーがオナラしたからだよ。

まりえ

は、あり得ん！　最悪！

るーなー

なんでよ！　るーなーがオナラしたからゆうたーと付き

合えたんでしょ！

まりえ

違うし！

るーなー

は、そうだし！

ゆつきー

いいさー、もう、どっちでも！　付き合っただから！

るーなー

……あ、ゆうたーに言っでこうかな？

ゆつきー

なにを？

るーなー

あの臭かったの、るーなーのオナラだよ、つて。

ゆつきー

あんた嫌われるよ。

るーなー

あ、そっか……。

ゆつきー

(まりえに) 今日は一緒帰るの？

まりえ

え、わかんない。

ゆつきー

言っできたら？「一緒帰ろー」つて。

まりえ

えー、でもなんか恥ずい。

るーなー

付き合っただんでしょ？ 普通じゃん？

まりえ

そっかあ……

ゆつきー

はやく言っといで。

まりえ

え、いま？

るーなー

ほかの人と帰るってなったらどうする？

まりえ

ああ……じゃあごめん、彼氏のところ行ってくる。

ゆつきー

キモっ！ そっこー彼氏とか言ってるし。

るーなー

はやく行け！

まりえ

いってきまーす！（教室を出て行く）

ゆつきー、るーなー、まりえの背中を見つめる。

るーなー

すごい、付き合ってたんだ。

ゆつきー

だからね。両思いだったんだね。

るーなー

でもそんな感じしなかった？

ゆつきー

え、わかんない。そうなの？

るーなー

なんかゆうたー、まりえのことチラチラ見てる感じがし

た。

ゆつきー え、全然気付かんかった。

二人の会話の途中（不意に）、突然の轟音。

るーなー （窓の外を見て） え？

ゆつきー ん？

音が大きくなるとともに、舞台上は暗転する。

しばらくすると、赤い光に覆われる。

まりえ一人だけが立ち、その背後に机や椅子が無秩序に積み上げられている。

★まりえ

ドーン！ ……っていう大きな音がして、わたしの体はどっか遠くに飛ばされました。(爆発音) ……っていう音と一緒に、るーなーとゆっきー、潰されてました。るーなーとゆっきーだけじゃなくて、自分なんかの教室とか、他のクラスメイトとか、ぜんぶ、飛行機に潰されてました。るーなーとゆっきーとたくさん話したこととか、楽しかった時間とか、思い出とか、ぜんぶ……ぜんぶ潰されてました！

★まりえ

なんで？ なんで、飛行機落ちてきたの？ なんで、ここに落ちてきたの？ なんで、るーなーとゆっきー殺したの？ なんで、まりえは殺さなかったの？……なんで？ なんで、まりえだけ生きてるの？ なんで？ なんで、

こんなことになったの？　ねえ、誰か。ねえ教えてよ、誰か！

★まりえ

この話はこれでもう終わりなんですけど、でもこれが終わっても、こんなってなってしまう可能性っていうか、そういうのは、たぶん、ずっと終わらないです。

まりえ、お辞儀をして去っていく。

暗転。

『2　デイドリーム』

プロ「この舞台の上は、アメリカです。（日本じゃありません）
いまからここで、アメリカ人の兵士を演じるのは、

日本人です（アメリカ人じゃなく）。

女性です（男性じゃなく）。

こどもです（大人じゃなく）。

なんだかぜんぶ、あべこべになってますね。

というわけで（？）、もうすぐ2つめの劇がはじまります。」

プロ「2 デイドリーム」

*

父と息子が「飛行機」ごっこをして遊んでいる。

父が仰向けに寝そべり、足で息子を持ち上げる。

息子は身体を真っ直ぐ伸ばし地面と平行な姿勢。

息子、喜んでいる様子。

父　（息子をおろし）ほい、着陸！。

息子　ねえ、もっかいやって！　もっかいやって！

父　え〜？

もう一度やる。

息子、喜ぶ。

下ろす。

息子　もっかいやって！

父　　え〜？

もう一度やる。ヨロヨロしている。

息子、喜ぶ。

父　　（つぶやくように）重い……。

下ろす。

息子　もっかいやってもっかいやって！

父　　もうおしまいだ。

息子　え〜？

父　　パパはもうそろそろお仕事に行く時間だ。また帰ってきてから、

飛行機、やってあげるからな。

息子 わーい、やったー！ 飛行機楽しい〜！ 飛行機大好き〜！

父 そうかそうか。お前は本当に、飛行機が好きだなあ。

息子 うん。僕ね、大きくなったら、パパみたいにパイロットになるんだ！

父 そうか！ お前もパイロットに！

息子 うん。だから、いーっぱい勉強して、いーっぱいトレーニングもして、パパみたいに、かっこいいパイロットになるんだ！

父 パパ、かっこいいか？

息子 うん、すっごくかっこいい！ 学校で友達にも自慢してるんだ！ 僕のパパはパイロットで、わるーいやつらをバンバンバーンつて、やっつけてるんだぞー、つて。

父 ……ああ。そっか。

息子 うん。だから僕も、パイロットになって、わるいやつらをやっつけるんだ！

父 ……そうかそうか。うん。お前なら、立派なパイロットになれるぞ。だって、パパの子どもなんだから。

息子 うん！

父 じゃあ、パパは行ってくるよ。

息子 うん。いってらっしゃい。

二人、ハグをする。

父、玄関を出て行く。

息子 パパ！

父 (振り返り) ん？

息子 帰ってきたら、また飛行機やって遊ぼうね！ 約束だよ！

父 うん。約束だ！ 行ってきます！

息子 じゃあね〜（と手を振る）

二人、動きがスローモーションになる。

息子、手を振りながら退場。

*

父、飛行機に乗り込み、墜落するまでをパントマイムで演じる。

・飛行用の服を着る

・ヘルメットをかぶる

- ・ハシゴを登る
- ・コックピットに入る
- ・シートベルトを着用する
- ・エンジンをかける
- ・レバー／ハンドルに手をかけ、離陸させる
- ・身体が後方に押される
- ・ハンドルを操作し、フライトをしている
- ・途中で持つ手が震えだし、コントロールが効かなくなる
- ・周囲を忙しく見回し、混乱する
- ・ついに、墜落する

ノイズなどが時折混入される。

墜落する寸前、女の子たちの笑い声が聞こえる。

墜落する際に、爆音。暗転。

*

上官、逃げるようにして出てくる。

兵隊、上官にすがりつき、頭を下げている。

上官 だから付いてくるんじゃない！

兵隊 お願いします！ 僕はどうしてもパイロットになりたいんです！

上官 なればいいじゃないか！

兵隊 あなたの力が必要なんです！

上官 私が何をすればいいんだよ！

兵隊 僕を鍛えてください！

上官 いやだ！

兵隊 お願いです！ 僕の話聞いてください！

上官 お前はアメリカ空軍だろ？

兵隊 はい！

上官 空軍に、きちんとした訓練プログラムってのがあるだろ！
そこで頑張って、パイロットを目指しなさい。んじゃ！（去って
いこうとする）

兵隊 （抱きつき）待って！

上官 離しなさい！

兵隊 あなたに教えて欲しいんです！

上官 私は忙しいんだよ。それに、パイロットになるなら空軍じゃな
くたっていいだろ。飛行機を操縦するのが夢なら、民間の航空

会社にでも就職したらいい。

兵隊 いやだ！ いやだいやだいやだいやだ！

上官 子どもか！

兵隊 子どもじゃない！

上官 わかってるよ！

兵隊 僕はあなたに教えて欲しいんです！ たしかに、いまのままでも僕はパイロットになれるかもしれない。でも僕になりたいのは、ただのパイロットじゃない。優秀なパイロットだ！ 歴史

に名を残すような、アメリカ中から賞賛されるような、そんなパイロットになりたい。……あなたは伝説的なパイロットだ。アメリカの強さ、たくましさ象徴するような人間だ。あなたじゃなきゃダメなんだ！ あなたじゃなきゃ！

兵隊、土下座をする。

兵隊　これがなにかわかりますか？ 『土下座』です。日本にいたあなたなら、この意味がわかりますか？

上官　……わたしは厳しいぞ……。

兵隊　……ありがとうございます！

二人、向き合って立つ。

間

*

以下のような、訓練の動きを行う。

- ・向き合いながら前進／後退
- ・うさぎ跳び
- ・腕立て伏せ
- ・真剣白刃取り

兵隊が失敗すると、上官がハリセンで叩く。

*

兵隊、座り込み、遠くを見つめている。
遠くで白い光があがる。

兵隊、何かに気づいて立ち上がる。

兵隊 戦争が始まった……。もう行かなくちゃ。

上官 まだだ。まだ訓練は終わっていない。

兵隊 何を言ってるんですか、この状況で！ それにもう僕の飛行技術はチームでもトップクラスだ。それもこれも、あなたのおかげです。ありがとう。

上官 だめだ。まだ戦場には行っちゃだめだ。お前にはまだ大事なことを教えていない。

兵隊 これ以上いったい何を教われというんです？ 僕はもう、ほとんどパーフェクトに近い。それよりも、この国の、いえ世界の平和のために、僕はもう行かなければならないんです！ 僕なら大丈夫です。安心してください！ あなたの指導者としての実力を、僕が証明してみせます！

上官 おい、待て！

兵隊、声を無視して去っていく。

上官、一人残され佇んでいる。

間

父、登場し、舞台の隅に立つ。

上官 なあ、

父 うん？

上官 お前の息子なあ、

父 うん、

上官 ……お前にそっくりだ。

父 そりゃ……困ったな。

上官 お前みたいに死んじゃったら、俺はどうすりゃいいんだよ。

父 ……手のかかる息子ですまん。

上官 ……まっただよ。

兵隊、二人の会話の間に登場。飛行機に乗り込み操縦レバーを握る。

父、上官、退場。

舞台がじんわりと暗くなっていく。

*

兵隊、ボタンを押す動作。

その動作の後に、爆破音が起こる。

(この動作を繰り返す)

舞台はだんだんと暗くなり、完全な暗転となる。

*

舞台が徐々に明るくなる。

兵隊、どこか無気力な様子で立っている。

上官、出てくる。

上官 おお！ 無事に戻ってきたか！

兵隊（上官の声に弱く驚く）あ、はい……ただいま帰りました。

間

兵隊 ……人って、人って、簡単に殺せちゃうんですね……知らなかった。

上官 そうだな。簡単だ。

兵隊 ……僕は、自分が怖いです。

上官 人を簡単に殺せてしまうことが？

兵隊 いえ。このままいくと僕は、人が簡単に死んじゃうってことに、何も感じなくなってしまうんじゃないかって思ってる。何も感じないまま、人を殺してしまうようになるんじゃないかと思ってる。そうなってしまうことが、とても怖いんです。

上官 お前に、まだ教えていないことがある。これは私からの、いや、お前のお父さんからの、最後の教えだ。

兵隊 父からの？

上官 ああ。お父さんが死んだ日、飛行機に乗り込む前に、なぜか急に

私に呟いたんだ。

*

父、出てくる。

父　なあ。

上官　どうした？

父　俺たちは、ヒーローなのか？

上官　どうしんたんだよ急に。

父　……俺たちは、何のために戦うんだ？

上官　そりゃあ……国のためだろ。

父　国……

上官 この国とそして世界の、自由と平和を守るためだ。

父 それを守るためには、罪のない人の命を奪わないといけないのか？

上官 ……それが戦争だ。

父 ……そうだな。それが戦争だ。それが仕事だ。

間

父 もし俺が、お前よりも先に死ぬことになったら、頼みたいことがある。

上官 よせよ。

父 頼む。息子に、伝えて欲しいことがあるんだ。

上官 自分で伝えればいいだろ。

間

父 息子に言って欲しいんだ。「お前のお父さんは、かつこよくなん

かないんだぞ」って。

上官 ……どういうことだよ？

父 人の命を奪うことに、誇らしいことなんか何もないんだよ。

……なあ、頼んだぞ。ちゃんと伝えてくれよ。

上官 ……わかった。

間

兵隊 わかるような気がします。父が言いたかったこと。

上官

もしまた戦場に行くのなら、それを胸に刻んでいてほしいんだ。

兵隊

……最近、嫌な夢を見るんです。僕の乗っている飛行機が、何かのトラブルで建物に突っ込んでいくつていう。どうやらそこは学校で、女の子たちが、楽しそうにおしゃべりをしてるんです。その笑顔の少女たちに向かって、僕の飛行機が突っ込んでいくんです。どんなに避けようとしても、ぜんぜんいうことを聞かなくて。その少女たちも、建物も、飛行機も、もちろん僕も、みんなみんな燃えてしまうんです。

間

兵隊

あれはきつと、父が、死ぬ前に見ていた景色なのかもしれない。僕らがやっていることはこういうことなんだと、父が必死に伝

えようとしているのかもしれない。

間

兵隊 僕はこれから、どうしたらいいんでしょうか？

間

上官 ……わからない……お前が決めるんだ。

父、兵隊の傍に来て、肩に手を置く。

父 お前が決めるんだ。

暗転。

『3 私たちの命』

プロ「小那覇舞天（おなは ぶーてん）……

沖繩の芸人、齒科医師。終戦直後の沖繩を元気づけた、『沖繩のチャップリン』。

もう亡くなっているが、「実はまだ生きている」というウワサも。

石川のどこかにひっそりと、ブーテンさんが隠れているんだそうです。信じるか信じないかは、あなた次第です。」

プロ「3 私たちの命」

舞天の営んでいる歯科医院。

舞天、音楽を聴きながらリラックスしている様子。

治療室に、まりえが入ってくる。

まりえ お邪魔します。

舞天 邪魔するならダメさ〜。

まりえ はい。（とそのままUターンして出て行く）

舞天、慌てて追いかけて、まりえを引っ張り戻ってくる。

舞天 　　なんで帰るの？

まりえ

なんで。邪魔するならダメって言ったさ。

舞天

言っただけど、そういう意味じゃないさ。

まりえ

……変なの。

舞天

で、今日はどうしたの？ 歯が痛いのか？

まりえ

え？（混乱している）

舞天

なんね。

まりえ

な、な、なんでわかる。

舞天

なんでって、当たり前さ。

まりえ

……こ、こ、怖い……。

舞天

なんでよ。ここ歯医者さんよ？ 歯医者さんに来たんだ

から、歯が痛いんだな〜ってわかるさ。なんにも怖くないよ。

まりえ

ちがう。歯をウーン！ってやるのが怖い。

舞天　そっちなね？　まだやる前から怖がらないで。……今日は

どうしたの？　歯が痛いの？

まりえ　当たり前さ、ここ歯医者でしょ。

舞天　あんた泣かされるよ。

まりえ　（身体を縮こませて）怖い。

舞天　あ、ごめんごめん、冗談さ。

まりえ　ちがう。ウーン！ってやるのが怖い。

舞天　ウーン！てやるのがね！

間

舞天　あなたお名前は？

まりえ　大城まりえです。

舞天 まりえ〜ね。私の名前は、小那覇舞天といいます。

まりえ ふうん。変な名前、テンブーって。

舞天 (少しムツとする) ……ブーテンね。

まりえ ブーテン。ブーテン先生。

舞天 そうブーテン。はい、じゃあここに寝てごらん。

まりえ はい。(隅にカバンを置き、台にうつぶせに寝る)

舞天 ちがうちがうちがう！

まりえ え？ なにが？

舞天 逆でしょ逆。

まりえ ああ。(足と頭の向きを入れ替える)

舞天 ちがう！ 上を向きなさい、上！

まりえ ああ、はい！(背中を反らせ、顔だけ上向き)

舞天 ちがう！ はっさ、あんたよ。

まりえ

はい？

舞天

……立ってごらん？

まりえ

(立ち上がる)

舞天

いいね？ 私の真似してよ。

まりえ

はい。

舞天

(寝台の上に仰向けになる) いいね？ こんなつてやるわけ。

まりえ

はい (と舞天の上で仰向けに寝る)

舞天

なんでよ！ (振り払う)

まりえ

(ポカン) なに？

舞天

……はい、寝てごらん。

まりえ

(仰向けに寝る)

舞天

とおー！ 上等！ だあ、「あー」してごらん。

まりえ

あー（と言いながら口を開ける）

舞天

（口の中を覗きながら）はいはいはい。虫歯があるね。はい、閉じていいよ。

まりえ

（口を閉じる）

舞天

ちよつと待つてよ。（治療をはじめようと準備している）

まりえ

……舞天先生……。

舞天

ん？

まりえ

……ウーン！つてやるの？

舞天

うん、そうだね。怖い？ 大丈夫ね？

まりえ

うん。頑張る。

舞天

よし、がんばろうね。はい、じゃあ「あー」して？

まりえ

あー（と言いながら口を開ける）

舞天、まりえの口元にドリルを近づける。

「ウイーン！」という機械音が響く。

まりえの声が大きくなる。

舞天 (ドリルを止め) ……別に「あー」って言わんでいいよ。

まりえ ……はい。

舞天 はい、いくよ。(ドリルを構える)

まりえ わー(と言いながら口を開く)

舞天 (ドリルを下ろし) ……「わー」って言わんでいいよ。

まりえ え、じゃあ何て言えばいいの？

舞天 別になんにも言わなくていいよ。ただ口開けるだけで。

まりえ (なぜかちよつと泣きそう) わかった。

舞天 (構えて) はい、じゃあ口開けてごらん？

まりえ、口を開ける。

舞天、ドリルをまりえの口元へ。

「ウーン！」という機械音。

間

まりえ
(突然) わー！

舞天
(慌ててドリルを戻す) なんでね？ どうしたの？

少しずつ、まりえがすすり泣く音が聴こえてくる。

舞天
泣いてるの？

まりえ
(泣きながら) 泣いてない。

舞天

泣いてるさ。なんで、怖かった？

まりえ

……うん。

舞天

「ウイーン！」って音が？

まりえ

……ううん。

舞天

え？

まりえ

ドーン、って音が。

舞天

ドーン……って音？

まりえ

……飛行機が落ちる音。飛行機が落ちて、ドーンってなる音……怖かった……だから、おっきい音が怖い。「ウイーン」でも「ブーン」でも「パーン」でも、もう全部が怖い……。おっきい音がなったら、もう、なんかおかしくなる。

まりえ、どこか遠くを見ている。

まりえ

……あれで、ゆっきーもるーなーも死んじゃったの……
なんで自分だけ……あのとき、本当は助けてあげれたはずなのに……

飛行機の音。

まりえ

(叫び声) ゆっきー! るーなー! こっち! ゆっ
きー! るーなー! お願い聞いてー!!

ゆっきー、るーなー、舞台の端に出てくる。

ゆつきー
なにー？

まりえ
お願い！ 逃げて！ こっち来て！ そこにいちゃダメ！ お願い！

るーなー
なんでー？

まりえ
そこダメってば！ お願い、逃げて！ 逃げてよー、お願い！ お願いだから、死なないでー！

ゆつきー
何言ってるのー？ 死なないよー。

るーなー
まりえー、大丈夫ー？

まりえ
お願い！ こっち来てよー！！

まりえ、二人の元に近づこうとする。

舞天、まりえを抑える。

いつのまにか音は止んでいる。

まりえ (まだ叫び続けている) やめて! そこダメってばー!

舞天 まりえ! おい、大丈夫ね? まりえ!

まりえ (気づいて) ……え?

舞天 (まりえを離し) はっさ、びっくりしたさー。飛行機の音

したら、急に叫び出すのに。

まりえ え、まりえが?

舞天 そうさ!

まりえ ああ……ごめん。

間

まりえ 舞天先生……

舞天

ん？

まりえ

まりえさ、どつか、静かなところに行きたい。飛行機の音とか、もう聴きたくないよ。

舞天

そうねえ……そうよねえ……でもさ、いーねー、まりえ。

あんたが泣いてちやダメさ。

まりえ

じゃあどうしたらいいの？

舞天

……笑うわけさ。

まりえ

笑う？

舞天

そう。あんたが笑わんと、亡くなった人たちが浮かばれ

ないよー？

まりえ

……笑えるわけないさ……笑えるわけないさ！ 友達が

死んだのに、どんなって笑えっていうわけ！ るーなー

もゆっつきーも死んだのに、自分だけ楽しそうにするとか、

ダメに決まってるさ！……もう、まりえも一緒に死にたかった！

まりえ、外に飛び出していく。(カバンは残したまま)

舞天、去っていきまりえを見つめている。

るーなー、ゆつきー、登場し、舞天の背後まで来る。

るーなー まりえ、大丈夫かな……

ゆつきー どんなしたら元気出してくれるんだろう。

舞天 死んでしまったあんたたちのこと考えたら、自分は楽し

く生きたらダメなんだって、思い込んでしまってる。

るーなー そんなことないのになー。るーなーたちの分まで、楽し

んで欲しいんだけど。

ゆつきー

ゆうたーとも結局うまくいってないしね。

舞天

ゆうたー？

ゆつきー

彼氏。まりえの。でもあの事故の後もずっと、全然ゆうたーと話そうとしないし。

るーなー

たぶん、自分だけ恋愛するとかもダメって思ってるんじゃない？

ゆつきー

たしかに……。

舞天

……どんなしようかね。私が行って話してこうかね。

るーなー

……うん……

間

ゆつきー

(隅に置いてあったまりえのカバンに気づき) 待って！

るーなー
ん？

ゆつきー
まりえ、戻ってくるよ。

るーなー
なんで？

ゆつきー
あれ（とカバンを指す）

るーなー
あ、まりえのカバン。

舞天
忘れていったんだね。

ゆつきー
待ってたら戻って来るから、そのときに話したらいいん

じゃん？

舞天
そうだね。

るーなー
でも、何を話すの？

ゆつきー
あ。そっか。

舞天
さつきあんなってなっちゃったからねえ……

るーなー
……あっ！

ゆつきー
ん？

るーなー
(ポケットを探ってなにかを取り出す) これ。

舞天
(それを見て) ……お守り？

ゆつきー
ああ！

るーなー
舞天さん、これ、まりえに渡してちょうだい？

舞天
あ、そうねえ。わかった。恋愛のお守りね。

ゆつきー
(お守りを取り出し出している) 舞天さん、これも。

舞天
はい (受け取る。それを見ながら) これ、商売繁盛だよ

…

ゆつきー
うん。

舞天
……わかった。渡しとこうね。

まりえ、おそろおそろ戻ってくる。

まりえ

あのー……

舞天

あー、はいはい。これでしょ。(カバンを取ってまりえに

渡す)

まりえ

あ、ありがとうございます。

舞天

それとね、

まりえ

はい？

舞天

(お守りをひとつ渡す) はいこれ。

まりえ

え？

舞天

お守り。恋愛の。

まりえ

……はあ。

舞天

あとこれは(ともうひとつ渡す)、商売繁盛。

まりえ

ショーバイハンジョー……え、これって……

舞天 あんたの友達がね。これプレゼントって。

まりえ え……るーなー？ ゆっつきー？

舞天 あの子たちの分も、楽しく生きないとね。ずっと見守っ

てくれてるんだよ、あんたのこと。

まりえ ……るーなー、ゆっつきー、いるの？ まりえのこと見てるの？

るーなー いるよ。

ゆっつきー ずっと見てるよ。

まりえ どこ？ どこにいるの？

るーなー (胸に手を当てて) ……ここよ。

ゆっつきー (まりえを抱きしめる)

るーなー あ！ (とまりえを抱きしめる)

まりえ いるんだね！ 近くにいるんだね！

るーなー

ゆつきー

舞天

(顔をしかめ) うるさー! 声デカすぎでしょ!

(笑いながら) もう、そんなに叫ばんでも聞こえるよ。

あなたの命は、もう、あなただけの命じゃないんだよ。
あなたの友達とか、あの事故で亡くなった子たちから、
あなたは、バトンを受け取ったわけさ。

まりえ

まりえが?

舞天

そう。だからあなたがやらんといけんのはね、悲しんで
泣くことじゃないよ。皆から受け取ったあなたのその命
を、お祝いすることだよ。

まりえ

命を、お祝いする……

舞天

又チヌグスージサビラ。言ってみてごらん。

まりえ

又チヌ、グスージ、サビラ?

舞天

そう! 命のお祝いをしましょう! 又チヌグスージザ

ビラ。いっぱい笑って、楽しく生きなさい。

まりえ　又チヌグスージサビラ……るーなー、ゆつきー！

まりえ、前方に向かって叫ぶように発話。

るーなー、ゆつきー、まりえに向かって話す。

るーなー　（驚く）うわ、びっくりしたー！

ゆつきー　急に大きい声出さないでよ！

まりえ　これからはさ、二人の分も、楽しんで生きていくからね！

恋愛もちゃんとするし、商売も繁盛させるからね！

るーなー　うん。お願い。

ゆつきー　楽しまんかったら呪ってやるからね。

まりえ　ありがとう！　又チヌグスージサビラだよ！　又チヌグ

スージサビラ!

るーなー
だから声おつきい!

まりえ
ありがとうねー!

ゆつきー
もう……

まりえ
これからもずっと、まりえのこと見ててね!

るーなー
うん。見てる。

まりえ
あ、でも、トイレの時とかは見ないで!

ゆつきー
ああ、まりえ臭いから?

まりえ
一応臭いからじゃないよ。

るーなー
そういえば、あのときるーなーがおならしたからゆうたー

とまりえ……

ゆつきー
(ささぎぎって) いいよ、その話は。

まりえ
るーなー、あのとときオナラしてくれてありがとう!

るーなー

ほら。

ゆつきー

なんでオナラして感謝されてるの。

るーなー

幸せ呼ぶオナラだからさ。今すぐでもできるよ。

ゆつきー

えー、やめて！

(…)

3人のやりとりのうちに、舞台上の照明は徐々にフェードアウトしていく。それに応じてBGMが大きくなり、やがて3人の会話が聴こえなくなっていく。

(了)